

令和5年度 国語科「古典研究Ⅰ」シラバス

| | | | |
|-----|---------------|----------|---------------------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・学年・学級 | 普通科 2年 特進選択 3～8組 |
| 教科書 | 精選古典探究(大修館書店) | 副教材等 | 国語便覧(大修館書店) 基礎からの古典文法(第一学習社) |

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

| 月 | 育成する資質能力 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価材料 |
|----|---|---------------------|---|---|--------------------------------------|
| 4 | ・古典などを読むことをとおして、我が国の文化の特質について理解を深めていること。 ・古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえていること。 | 説話『十訓抄』 大江山いくのの道 | ・和歌の文化的背景とそれに携わる人物関係をふまえ、「大江山」の和歌を軸に、人物の言動や心情を読み取る。 | ・和歌の解釈をおとして、小式部の心情と才能、定頼が返歌できなかった理由を考える。 ・人物関係を整理し、主語を正しくつかむ。 ・古語の意味や助詞、助動詞の意味を確認しながら現代語訳する。 ・敬語の理解を深める。 | ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 5 | ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、五感を磨き語彙を豊かにしていること。 | 故事・逸話 「塞翁馬」 | ・話中の時間の経過と、話の展開を理解する。 | ・話の時代背景や舞台を理解する。 ・訓読上注意する漢字の用法を正しく理解する。 | ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 6 | ・古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めていること。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしていること。 | 物語(二) 『伊勢物語』初冠 | ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。 | ・「いちはやきみやび」に着目し、平安貴族の美意識を理解する。 ・古語の意味や助詞、助動詞の意味を確認しながら現代語訳する。 ・和歌の修辞について理解する。 | 定期考査 ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 7 | | 文章 「桃花源記」 | ・桃花源郷はどのような世界か理解する。 | ・村人の様子や考えをまとめ、物語の結末と、作者の意図を考える。 ・訓点に従って正しく読めるようにする。 ・現代語訳を理解し、古代中国人のものの見方・考え方を味わう。 | ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 9 | ・我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めていること。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしていること。 | 随筆 『枕草子』 | ・作者のものの見方や感じ方また教養などについて理解する。 | ・作者のものの見方や感じ方と自分のそれとを比べる。 ・古語の意味や助詞、助動詞の意味を確認しながら現代語訳する。 ・敬語の理解を深める。 | 定期考査 ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 10 | ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めていること。 | 漢詩一近体詩 | ・近体詩に親しみ、その形式を理解する。 | ・漢詩の形式による押韻の規則や、対句などの表現技法を理解する。 ・訓点に従って正しく読めるようにする。 ・現代語訳を理解し、古代中国人のものの見方・考え方を味わう。 | ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|--|
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めていること。 ・作品の成立した背景やほかの作品などとの関係をふまえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察していること。 ・古典の分の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めていること。 ・作品の成立した背景をふまえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察していること。 | 日記 『土佐日記』羽根 史伝—『史記』本紀 鴻門の会 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品の持つ虚構性を理解し、和歌などから作者の心情を味わって読む。 ・人物の関係を把握し、それぞれの言動を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・和歌を理解し、和歌に対する人々の心情を味わう。 ・古語の意味や助詞、助動詞の意味を確認しながら現代語訳する。 ・項白、范増、項王の考えを読み取る。 ・話の時代背景や舞台を理解する。 ・訓読上注意する漢字の用法を正しく理解する。 ・訓点に従って正しく読めるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 12 | | | 期末考査 | | 定期考査 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典の分の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めていること。 ・書き手の考えや目的、意図をとらえて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価していること。 | 日記 『更級日記』門出 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語作品などへのあこがれと夢を抱く作者の心情を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭から門出に至るまでの作者の心情を整理する。 ・古語の意味や助詞、助動詞の意味を確認しながら現代語訳する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート分析 ・記述の確認 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・古典作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方をふまえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしていること。 | | 期末考査 | | 定期考査 |
| 3 | | | | | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ア 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。イ 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。ウ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。エ 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 |
| 思考・判断・表現 | 【読むこと】ア 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。イ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。エ 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。オ 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。カ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。キ 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。ク 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 |

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・自分自身で答えを考え、メモを取る姿勢を身につけてください。
- ・辞書を用意し自らの意思で積極的に活用して下さい。
- ・分からないところはためこまずに積極的に質問をするようにして下さい。
- ・課題や提出物は期限を守り、提出するように心掛けて下さい。